琵琶湖での春季沖曳網によるオオクチバスの捕獲状況

田口貴史・関慎介（水産課）

１．目　的

琵琶湖北湖での外来魚駆除には、沖曳網が有効であるが[1)]、5～7 月にはその操業が禁止される。そのため、春季の当該漁法による外来魚駆除に関する知見は限られている。本調査は、平成 28 年度より開始された「外来魚駆除フォローアップ事業」による特別採捕許可の下で実施された春季沖曳網でのオオクチバス（以下、バス）の捕獲状況と、その食性を把握し、今後の駆除事業の基礎情報とすることを目的として行った。

２．方　法

平成 28 年 5 月 1 日から 6 月 7 日にかけて、沖島漁協に沖曳網による外来魚駆除を依頼し、期間中の外来魚の捕獲状況を記録した。また、捕獲されたバスの一部（320 個体）の標準体長（以下、体長）、体重を測定し、体長組成分布を作成した。測定魚のうち 33 個体（体長 20cm 以上）については胃内容物を調査し、餌料重要度百分率（%IRI）[2)]を算出した。以上より得られたデータを同年秋（11 月 4 日～11 月 30 日）の当該漁協による沖曳網での外来魚捕獲から得られたデータと比較した。

３．結　果

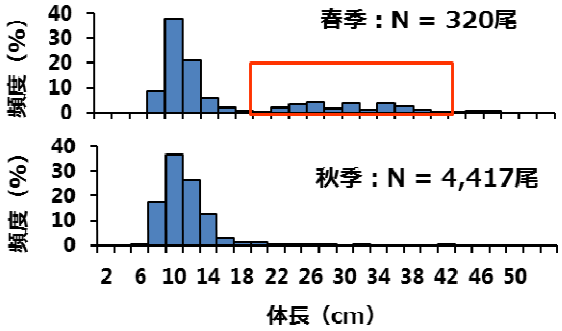
期間中に沖曳網での駆除は計 51 回実施された。月別の捕獲状況と出漁あたり捕獲重量を表 1 に示す。バスの総捕獲量は 944.4 kgで平均捕獲量は 18.5kg/回であった。捕獲魚の体長組成を図 1 に示す。秋季に捕獲されたバスはその体長組成から、ほとんどが当歳魚と考えられるが、春季の沖曳網では体長 20cm 以上の親魚サイズの個体も一定捕獲された。しかしながら、春季沖曳網は秋季沖曳網に比べると、操業 1 回あたりの捕獲量が少ない。今後継続して操業時の情報を蓄積し、より効率的に捕獲できる条件を特定する必要があると考えられる。

捕獲魚の食性については、スジエビを捕食した個体が多数みられ、%IRI で見た場合でもスジエビの重要度が高かった。

表 1 沖曳網でのオオクチバス捕獲状況（時期別）

出漁時期	春季			秋季
	5月	6月	5，6月合計	11月
捕獲量（kg）	773.9	170.5	944.4	899.8
出漁回数（回）	42	9	51	27
1回あたりの捕獲量（kg/回）	18.4	18.9	18.5	33.3

図 1　春季、秋季に沖曳網で捕獲された



オオクチバスの体長組成

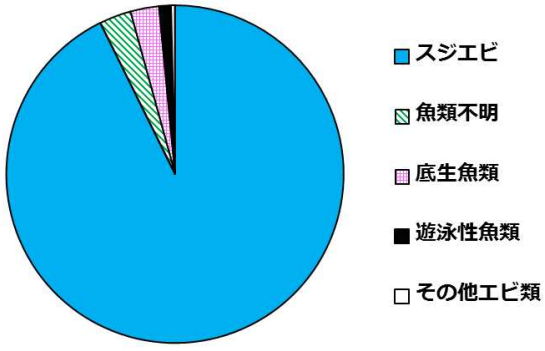


図 2　春季沖曳網で捕獲されたオオクチバス 33 個体の胃内容物%IRI

1) 吉岡剛，上垣雅史，太田豊三（2012）．琵琶湖における有害外来魚ゼロ作戦事業．日水誌 78(4)，765-768.
2) Pinkas L (1971). Food habits study. Fish bulletin 152 food habits of albacore, bluefin tuna, and bonito in California water.